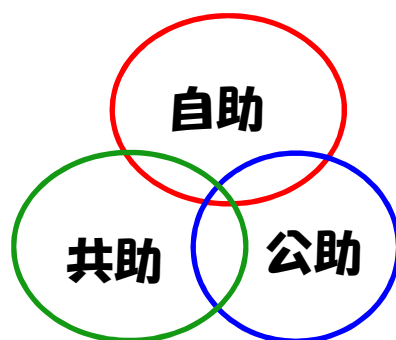


安城市校区別地震防災カルテ

学区：安城西部小学校区



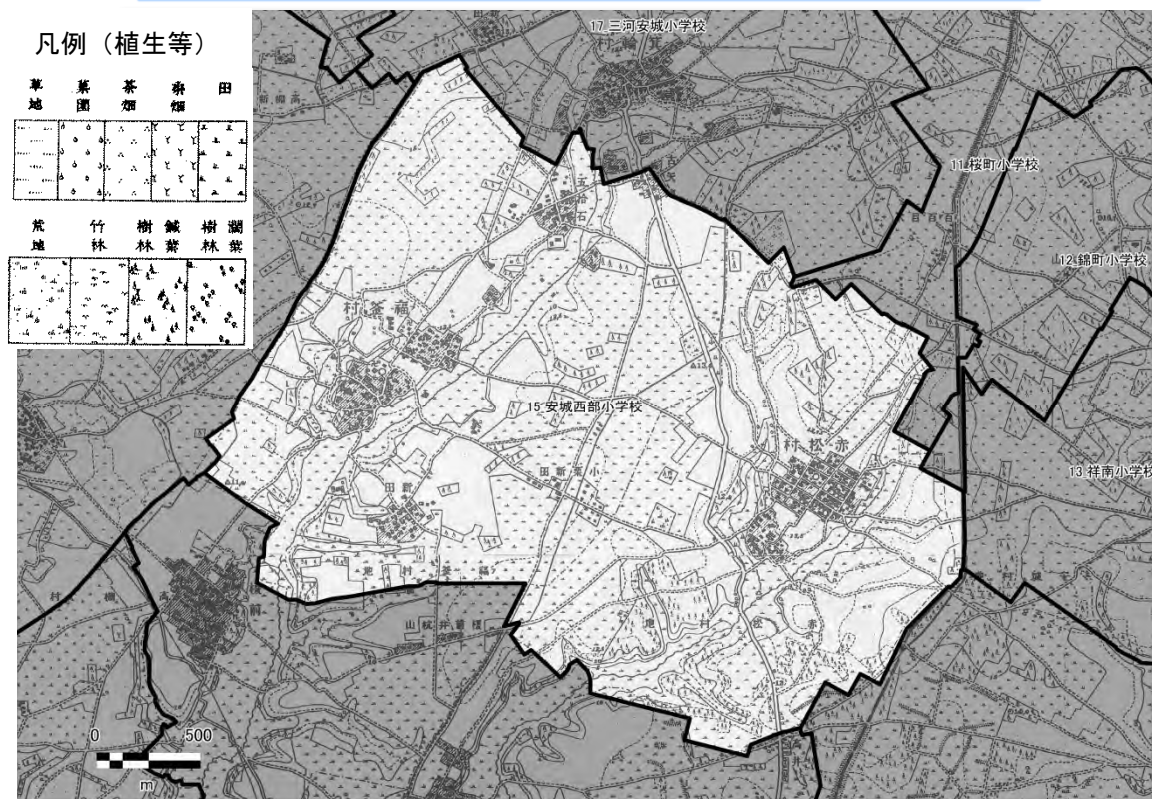
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

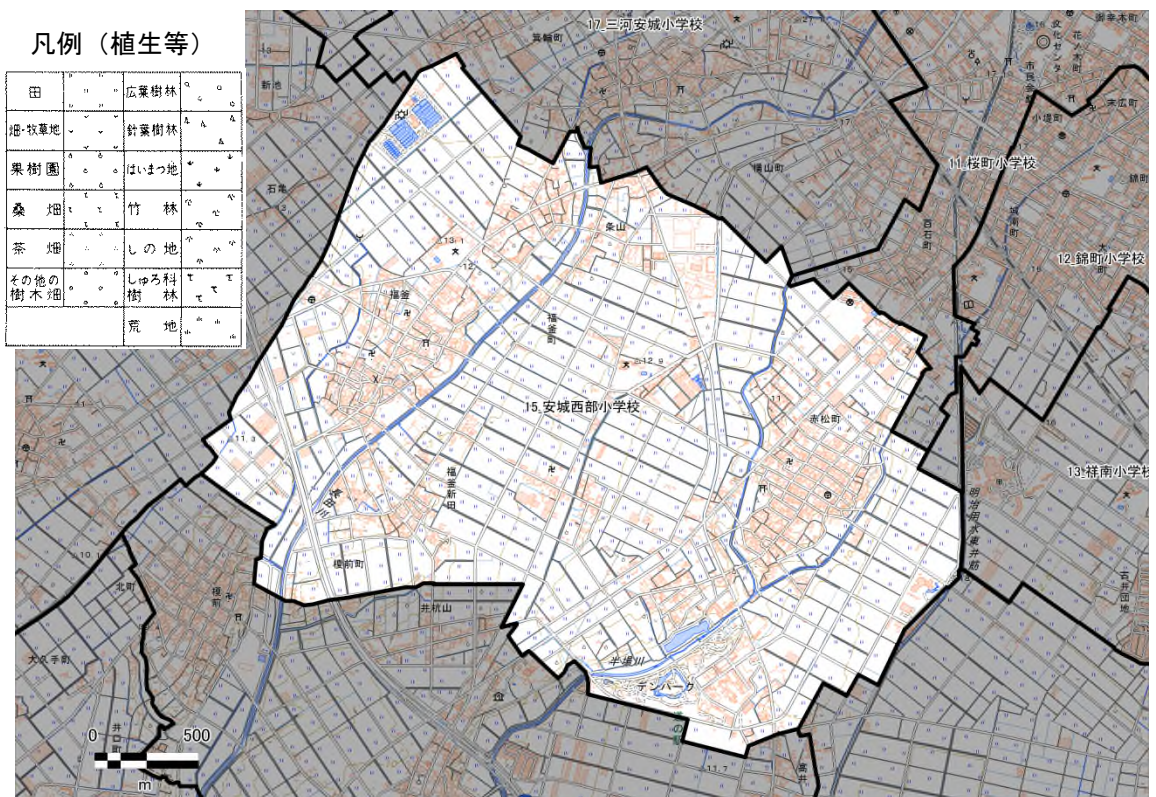
目 次

安城西部小学校区のむかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	9
8. 防災上の課題	9
9. 防災関連施設分布図	10

安城西部小学校区のおかしと今

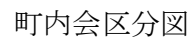
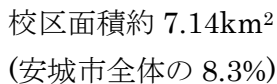


むかし（1890年（明治23年）ごろ）の校区付近の地形



今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



2. 校区の構成

福釜町、赤松町

3. 校区の概要

【位置】 安城西部小学校区は、市のほぼ中心に位置する。

【地形】 校区内には長田川と半場川が流れている。

標高は比較的高く平地が広がっている。

【土地利用】 長田川以西の県道道場山安城線（295 号線）沿いと、半場川以東の県道安城碧南線（45 号線）沿いに住宅が密集している。その他は主に田畑が広がっている。

【交通】 南西部に国道 23 号（知立バイパス）が通っている。

北西部には県道岡崎半田線（47 号線）・県道道場山安城線（295 号線）が通っている。

東部には県道安城碧南線（45 号線）が南西方向に通っており、県道豊田一色線（12 号線）と交差している。

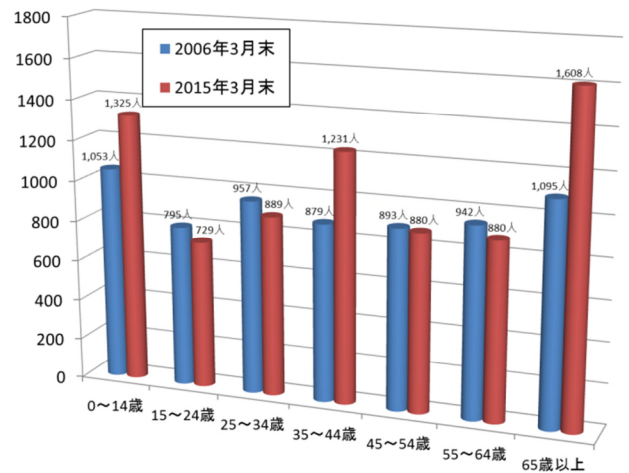
鉄道は通っていない。

【その他】 町内会は、福釜町内会、赤松町内会

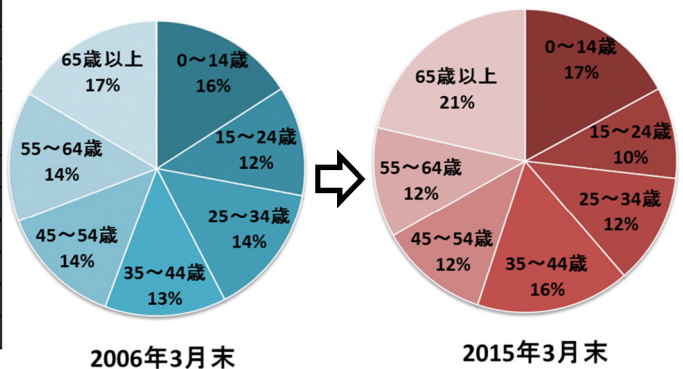
【人口等】（2006 年 3 月末時と 2015 年 3 月末時の比較）

人口は増加している。ただし、65 歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,053人	16%
15～24歳	795人	12%
25～34歳	957人	14%
35～44歳	879人	13%
45～54歳	893人	14%
55～64歳	942人	14%
65歳以上	1,095人	17%
人口(合計)	6,614人	100%
人口密度	926人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	1,947世帯 (対全市 3.2%)	

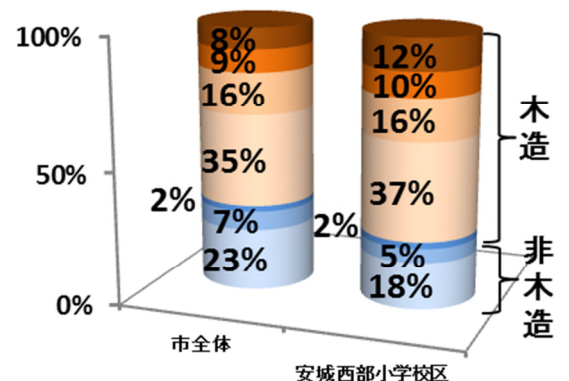


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,325人	17%
15～24歳	729人	10%
25～34歳	889人	12%
35～44歳	1,231人	16%
45～54歳	880人	12%
55～64歳	880人	12%
65歳以上	1,608人	21%
人口(合計)	7,542人	100%
人口密度	1,056人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	2,401世帯 (対全市 3.5%)	



【建物棟数】（2011 年 12 月）

	建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	413棟 12%
	昭和37～46年	328棟 10%
	昭和47～56年	549棟 16%
	昭和57年以後	1,269棟 37%
非木造	昭和46年以前	83棟 2%
	昭和47～56年	188棟 5%
	昭和57年以後	610棟 18%
建物棟数(合計)		3,440棟 100%
1km ² 当たりの建物棟数 (校区／全市)		校区: 482 / 全市: 699(棟/km ²)

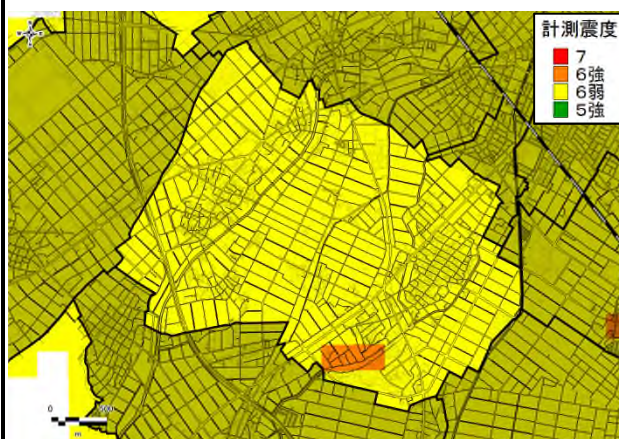


4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

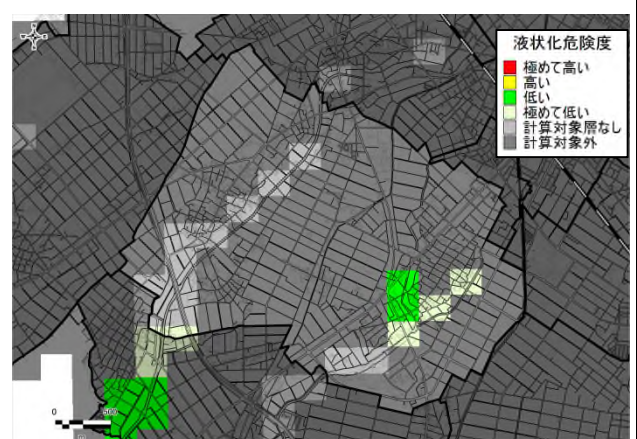
過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの(1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。

① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



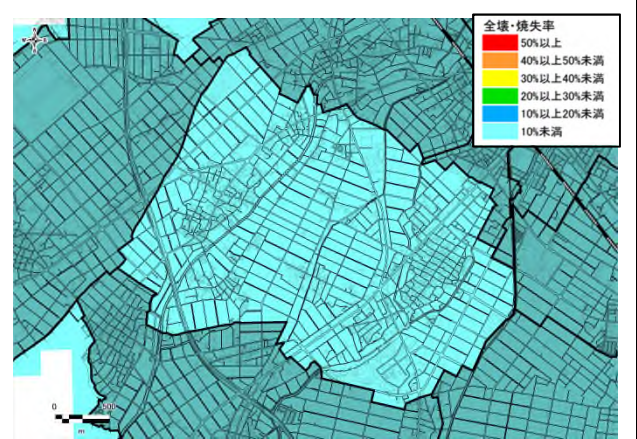
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



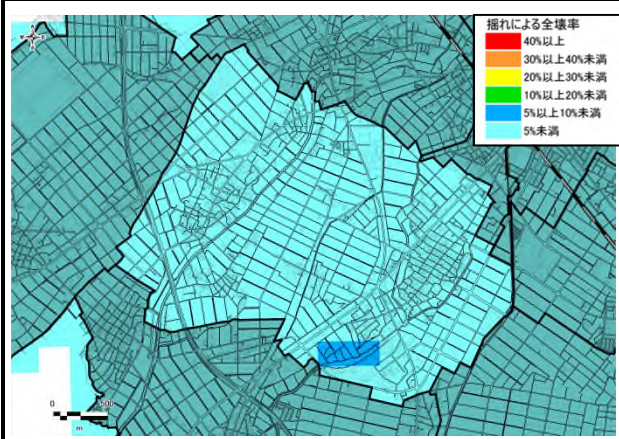
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



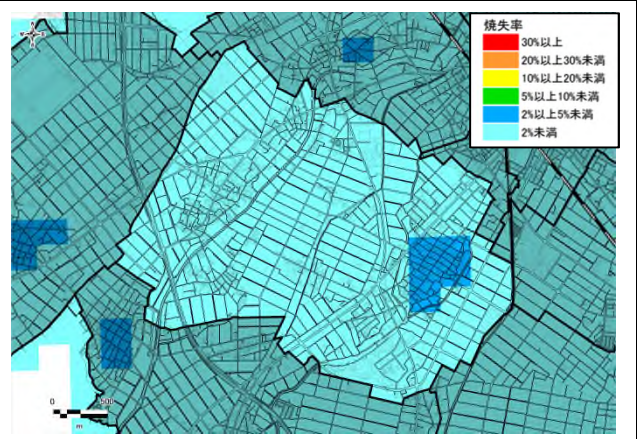
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

安城西部小学校校区は、震度 6 弱から一部震度 6 強の揺れが想定されている。震度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、震度 6 強ははわなないと動くことができないほどの非常に強い揺れである。したがって、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。

液状化に関しては、校区の大部分が台地上にあるため、長田川沿川と半場川沿川で若干液状化の可能性が心配される程度である。

<建物・人的被害の予測>

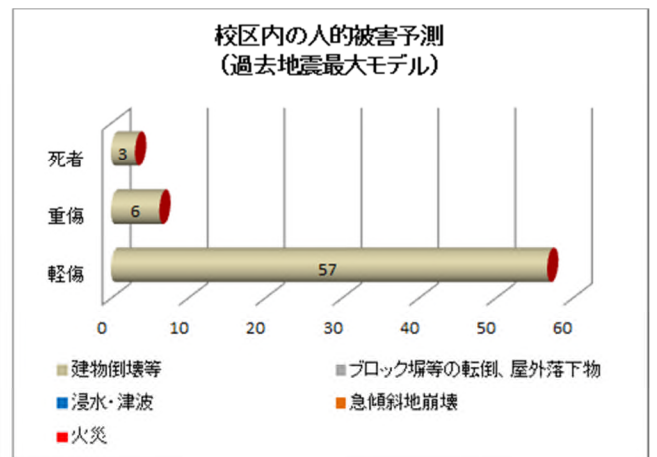
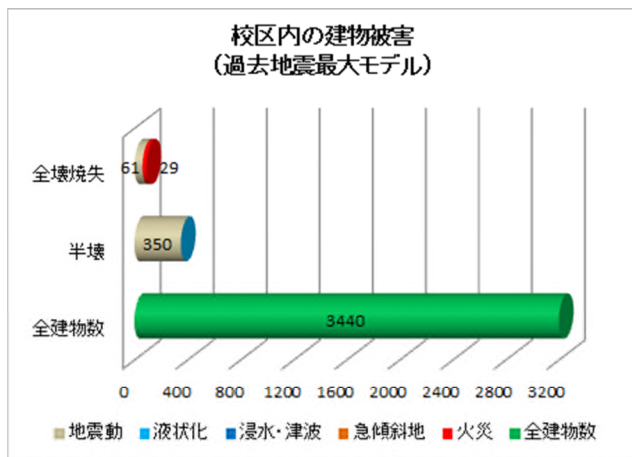
単位: (棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数3,440棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	61	350
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	29	—
建物被害総数	90(2.6%)	350(10.2%)

単位: (人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口7,068人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	3	6	57
(うち屋内転倒物・屋内落下物)	*	(2)	(9)
ブロック塀等の転倒、屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	*	*	*
被害者数合計	3(0.04%)	6(0.09%)	57(0.80%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
安城西部小学校校区	310	186	124	1,048	524	524	310	93	217
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

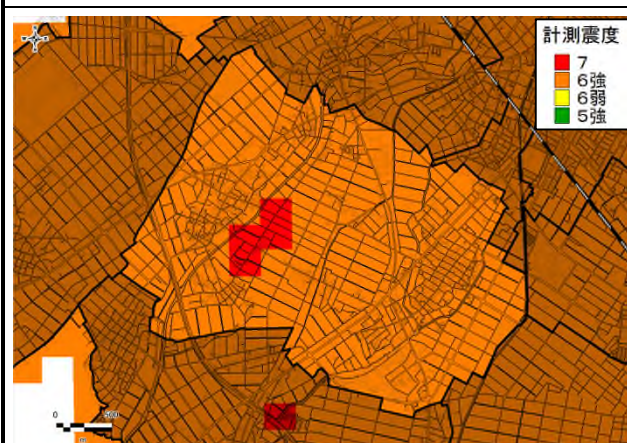
※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

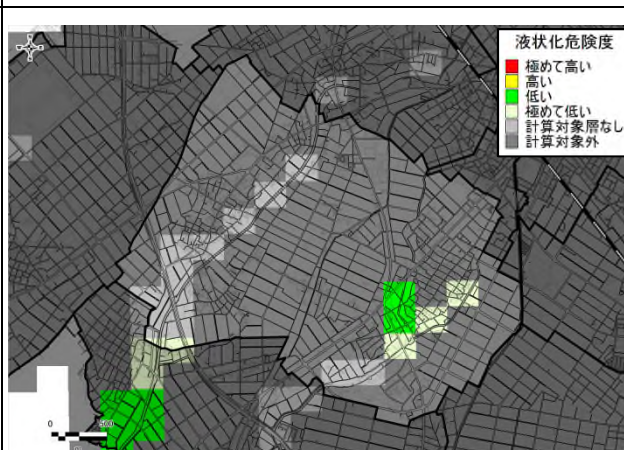
理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。

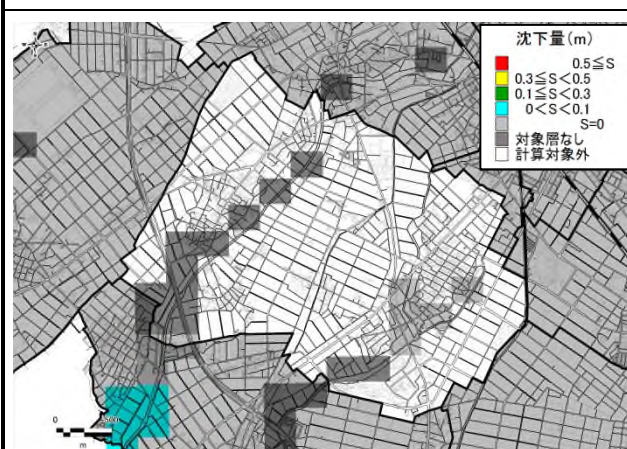
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



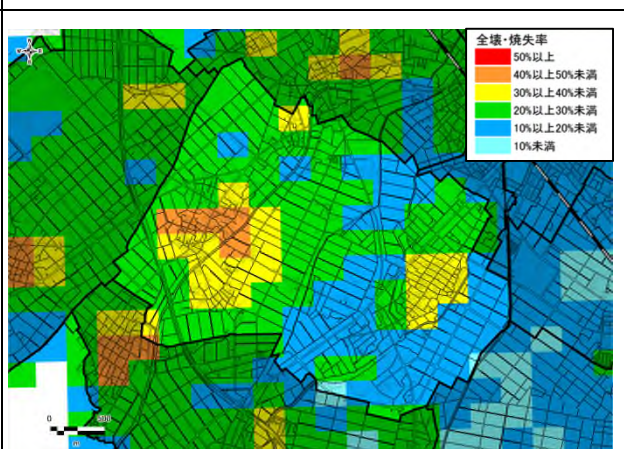
② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



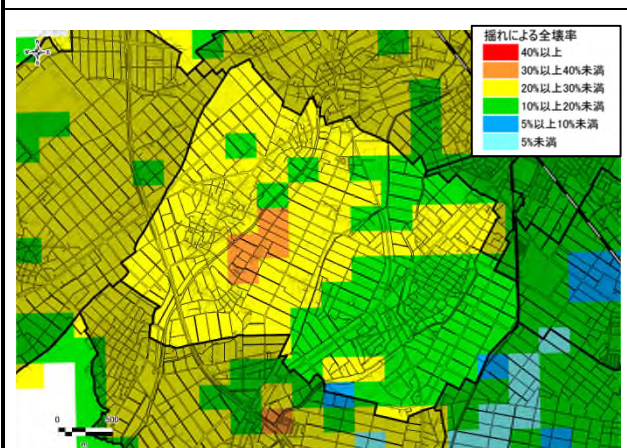
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



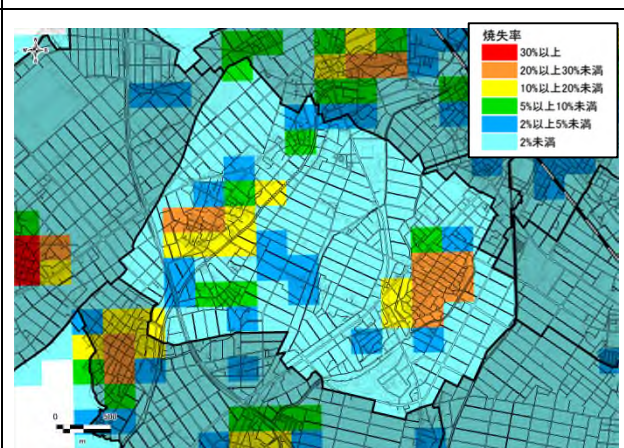
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

安城西部小学校区は、震度 6 強から一部で震度 7 の揺れが想定されている。はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。

液状化に関しては、校区の大部分が台地上にあるため、長田川沿川と半場川沿川で若干液状化の可能性が心配される程度である。

<建物・人的被害の予測>

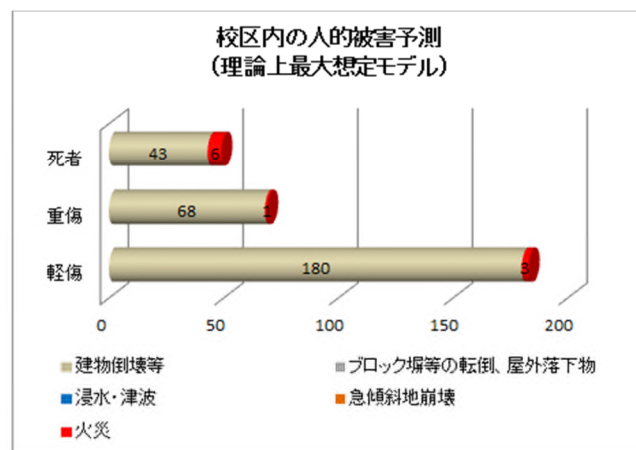
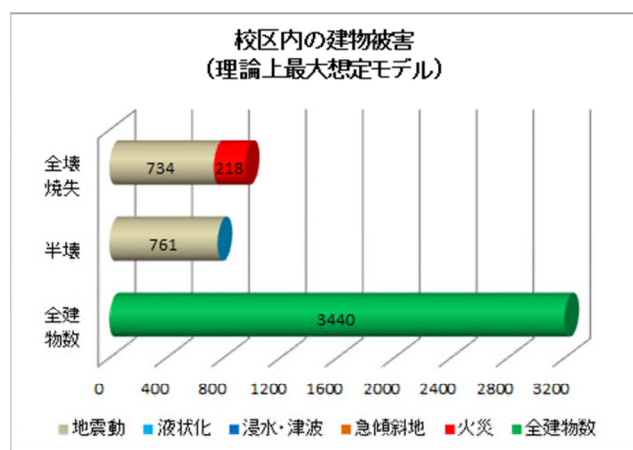
単位: (棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数3,440棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	734	761
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	218	—
建物被害総数	952(27.7%)	761(22.1%)

単位: (人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口7,068人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	43	68	180
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(3)	(14)	(50)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	6	1	3
被害者数合計	49(0.69%)	69(0.98%)	184(2.60%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	福釜駐在所
緊急時ヘリポート可能箇所	安城産業文化公園デンパーク
消防署	安城消防署西出張所
消防団	福釜分団詰所、赤松分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所※	—
自主防災組織数	2
防災倉庫	安城西部小学校、安城西中学校、安城高等学校 西部公民館、総合福祉センター、西部福祉センター
応急給水施設	安城西部小学校、安城西中学校、安城高等学校、 西部公民館、総合福祉センター、西部福祉センター
井戸	21
マンホールトイレ	安城西部小学校
学校	安城西部小学校、安城西中学校、安城高等学校
保育園	赤松保育園、西部保育園
幼稚園	—
公民館・福祉センター	西部公民館、総合福祉センター、西部福祉センター

※大規模災害時にのみ開設される救護所

7. 避難所等一覧

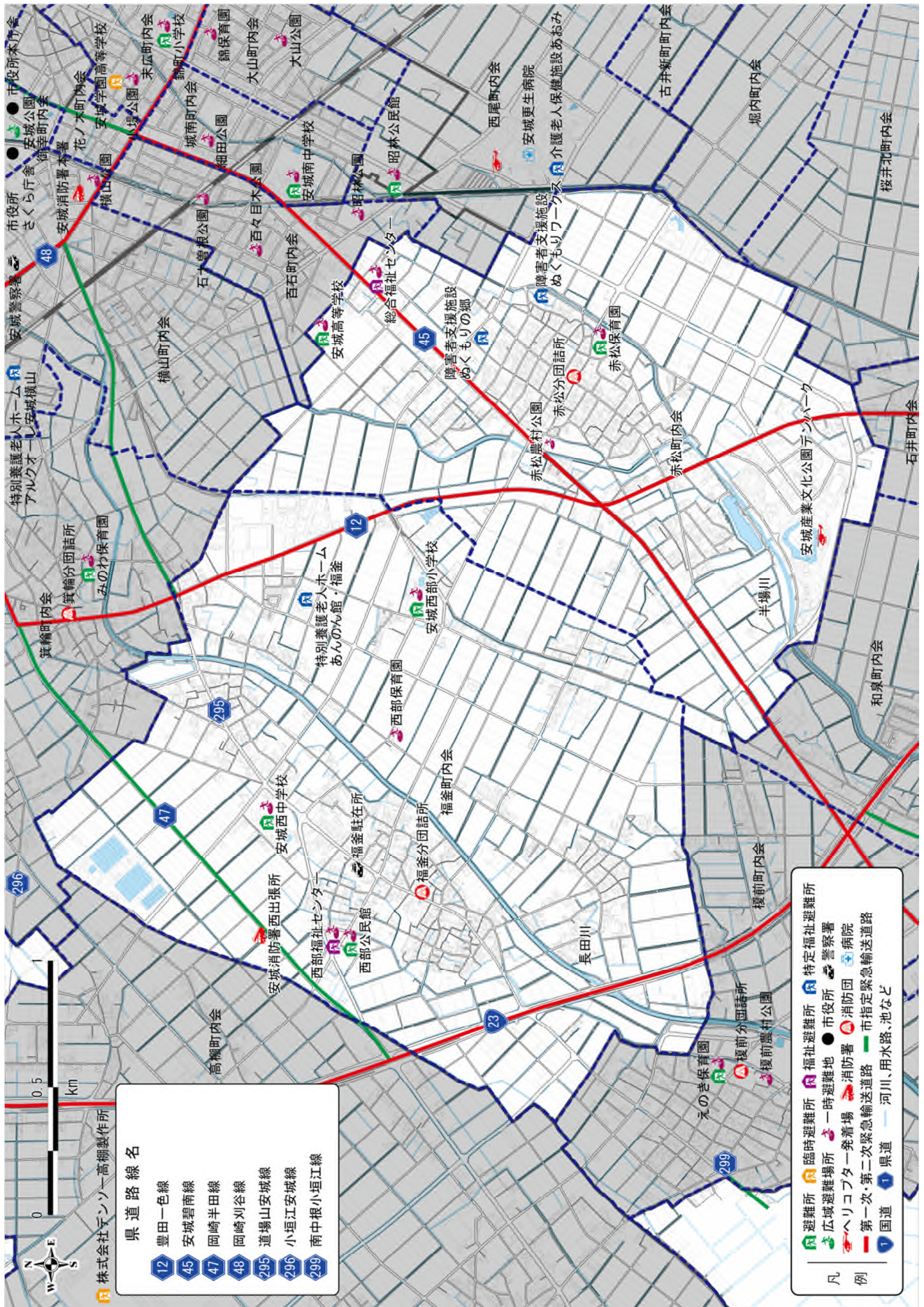
避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	安城西部小学校	76-2303	福釜町猿町 128	250
		安城西中学校	76-2320	福釜町中根 43	800
		安城高等学校	76-6218	赤松町大北 103	720
		西部公民館	76-9393	福釜町釜ヶ渕 20-1	220
		赤松保育園	75-2483	赤松町隅田川 55	70
福祉避難所等	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	福祉	総合福祉センター	77-7888	赤松町大北 78-1	260
		西部福祉センター	72-6616	福釜町西天 12	100
	特定福祉※	特別養護老人ホーム あんのん館・福釜	71-3171	福釜町矢場 88	—
		障害者支援施設 ぬくもりの郷	77-5222	赤松町北新屋敷 112-1	—
		障害者支援施設 ぬくもりワークス	77-1555	赤松町恋塚 87-1	—
避難場所等	区分	名称		所在地	面積[㎡]
	一時	赤松農村公園		赤松町前川 70-1	1,200
		安城西部小学校		福釜町猿町 128	7,600
		安城西中学校		福釜町中根 43	9,000
		安城高等学校		赤松町大北 103	24,000
		西部公民館		福釜町釜ヶ渕 20-1	5,100
		赤松保育園		赤松町隅田川 55	650
		総合福祉センター		赤松町大北 78-1	5,200
		西部福祉センター		福釜町西天 12	1,000
		西部保育園		福釜町笠松 102	1,500

※市の依頼に基づき開設される臨時的な避難所

8. 防災上の課題

- ・昭和 56 年以前に建築された木造住宅が多い地区となっており、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 13%、理論上最大想定モデルで約 50%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 9 人、理論上最大想定モデルで 111 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進めることが必要である。
- ・木造住宅の割合が多く、火災による人的被害では理論上最大想定モデルで死者数、重傷者数が 7 人となる想定が出ている。火災による人的被害を減らすためには、各家庭での消火器の準備等により火災を拡大させない対策が必要である。

9. 防災関連施設分布図



※最新の地形図とは異なる場合があります。

平成28年8月配布
安城市危機管理課